

知財座敷童（ざしきわらし）語り部

『電子マネー決済とセルフレジ』

今年は4月13日から「大阪・関西万博（注1）」が開催中です。
特別博として開催された2005年の愛知万博を除くと、総合的な博覧会としては日本では55年ぶりの開催です。

この万博では「空飛ぶ車」や「火星の石」などの目玉展示を始め「人間型ロボット」や「iPS心臓」など、未来に繋がる最新の技術が話題を呼んでいますが、会場内での支払い方法についても、未来社会実験の一環として「全面キャッシュレス」のシステムが採用されています。

つまり、会場の中では現金が一切使えません。支払いは全てクレジットカードやQRコード（注2）などの電子マネーで決済する必要があります。
今回、この大阪・関西万博のために、電子マネー「ミyakape」（注3）が作られました。
この「ミyakape」を使うと、特別なポイント（ミyakapo）が貯まるほか、万博でしか手に入らないオリジナルグッズと交換出来たり、特別なイベントに参加できるチケットと交換で出来たりと、多くのメリットがあるようです。

決済の自動化というと、2020年頃に衣料品用のレジとして登場したセルフレジが思い浮かびます。商品をレジの箱に入れると自動的に商品点数と金額を計算し会計処理までしてくれるという画期的なレジです。このセルフレジは、RFID（注4）技術を使用し、各商品に取り付けられたICタグ（注5）からの信号（各商品の情報）をレジ側の受信装置で読み取ることで、商品が認識されるという仕組みになっています。

実はRFIDは2001年からSuicaに使われている技術です。このRFIDを使用したセルフレジが最近になって実現したのは、ネックになっていたICタグのコストが安価になったことがその理由のようです。
皆さんも、このようなタイプのレジを使用する機会がありましたら、商品についているICタグを実際に手に取って見てください。すぐ身近にある技術の進歩を実感できるかもしれません。

<参考>

注1：「EXPO2025 大阪・関西万博」公式サイト
<https://www.expo2025.or.jp/>

注2：「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標。

注3：大阪・関西万博の電子マネー「ミyakape！」
<https://introduction.expo2025-myaku-pe.com/>

注4：RFID（Radio Frequency Identification）は、電波を用いてICタグの情報を非接触で読み書きする自動認識技術。

注5：ICタグ（IC tag）とは、ICチップとそれに接続したアンテナで構成された素子のこと。

※配信元：東北地域知財戦略本部事務局（東北経済産業局知的財産室）
※本コラムの無断転載を禁じます。